

※文字起こしには AI を利用しております。漢字の誤変換等があるかもしれませんが、あらかじめご了承ください。

教育委員会の取組みについて

【水野教育長より】

1（１）府立学校条例及び府立高等学校再編整備計画に基づく令和 8 年度対象校（案）について

先ほどの教育委員会会議において、今年度の再編整備対象校（案）が承認されました。

本案については、府議会での議論等をふまえた上で、11 月の教育委員会会議において、最終決定する予定です。

今年度については、淀商業高校、鶴見商業高校、住吉商業高校の 3 校を対象校とし、新たな商業系高校 1 校を設置することいたしました。

新たな商業系高校については、昨年度策定した「府立高校改革アクションプラン」や、本年 6 月の学校教育審議会答申をふまえ、少子化や教育のニーズの高度化・多様化に対応した、商業教育の中核となる新たな学校の創設に向けて、検討を進めていきます。

新校のあり方や校地、3 校の募集停止時期は、今後、具体的に検討を進めていく中で決定する予定です。

新たな商業系高校だけでなく、国際関係学科設置高校の改編や新たな工業系高校「FIORA（フィオーラ）高校」の開校に向けて、また、「府立高校改革アクションプラン」に掲げた改革を、大阪の教育のさらなる発展に向けて、進めていきたいと思います。

2（１）令和 8 年熊本地震に伴う被災地への支援について

このたびの「令和 8 年熊本地震」によりお亡くなりになられた方々に、謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

大阪府教育庁では、令和 8 年熊本地震に伴う被災地への支援を行っております。まず、「大阪府災害時学校支援チーム『えん大阪』の派遣」についてご説明いたします。

教育庁では、被災地の学校教育の早期再開を支援するため、専門的知識と実践的対応能力を備えた教職員等で構成する「大阪府災害時学校支援チーム『えん大阪』」を令和 8 年 4 月 1 日に設置しており、この度の熊本地震の発生をふまえ、カウンターパートである八代市の学校支援のため、チーム員を派遣しております。

派遣期間は、まず先発隊として 8 月 17 日から 19 日の 3 日間、本隊として派遣を 8 月 24 日から 28 日までの 5 日間と、本日から 9 月 4 日までの 5 日間としており、各期間 3 名を派遣いたします。

以降の派遣については、現地での学校再開の状況等を見極めながら、判断していきます。

派遣先は、八代市内にある各小・中学校です。

活動内容につきましては、まず 8 月 17 日からの先発隊において、半壊により移転が必要となった学校の引越作業や、各学校へヒアリングなど行い、必要とされる支援内容を聞き取り、以降の派遣に係る調整等を行いました。

8 月 24 日からの本隊では、使えなくなった教室内の物品移動や清掃など教室設営を行いました。また、8 月 28 日の始業式では、登下校の支援を行いました。本日以降も引き続き、通学路の安全確保等の支援を行う予定です。

八代市教育委員会、岡山県・熊本県等の学校支援チームと共に、八代市の子どもたちが安心して学校に通うことができるよう、支援してまいります。

次に、「大阪府公立高等学校等への受入れ」についてです。

すでに報道発表しておりますが、8月13日木曜日から、被災地域の児童生徒等の大阪府公立高等学校等への受入れについての特別措置を実施しております。

対象は、被災地から大阪府公立高等学校等に、入学または転入学する方で、支援内容は、入学に要する入学検定料等を特別免除いたします。

なお、本件に関する問い合わせは、8月28日時点ではございません。本件に関する問合せ先は資料に記載のとおりとなりますので、ご周知いただければ幸いです。

教育庁としましては、これらの取組みを通じて、被災地の一日も早い復興に向けて支援してまいります。

3（１）講師の確保に向けた取組について

府教育庁では、大阪府内公立学校教員の欠員解消に向け、教員免許保持者の掘り起こしや、教員のキャリア形成のサポート等、年間を通じて講師の確保に努めているところです。

このたび、9・10月に府内各地域で講師希望者登録説明会を開催します。府内各地区で実施するほか、平日の夜間あるいは休日にも大阪市内で開催します。

この説明会では、講師制度の説明に加え、大阪府の公立学校の教育事情や講師経験者からのメッセージを紹介するとともに、個別相談会も予定しています。

大阪府内の公立学校講師としての勤務に興味をお持ちの方は、ご都合の良い日時・場所で、ぜひご参加ください。

講師登録については、説明会当日に限らずオンライン等で随時受付しております。詳細は府ホームページをご確認ください。

4（１）すこやか教育相談からのお知らせ

府教育センターでは、年間を通して、児童生徒、保護者、教職員を対象に電話や電子メール、FAX、LINEで学校等での悩みについての相談に応じ、解決に向けた支援を行っています。

8月31日の月曜日から9月4日の金曜日まで、通常よりも電話回線を増やして相談体制を強化します。

開設時間は、9時30分から17時30分までです。なお、電子メール、FAXは24時間受付で、回答は後日となっています。

相談には、心理師等の専門相談員が対応します。また、必要に応じて医療、福祉等の関係機関とも連携し、解決を図ります。

推進週間については、政令市を除く府内小中学校、高等学校、支援学校に、ポスターを配付し、周知しています。また、相談窓口の連絡先を示したカードを子どもたち一人ひとりに配付するとともに、一人一台端末にも案内を掲載しています。なお、子どもたちには、電話相談「すこやかダイヤル」に加えて、LINEを活用した教育相談を通常の日曜日から木曜日の週5日に加え、9月17日木曜日までの毎日、19時から22時まで実施しています。

夏休みが終わり、授業が再開されたこの時期の子どもたちは、学校生活への不安を抱きやすくなります。また、保護者の方も、学校や家での出来事など、子どものことで悩みや不安を感じたときは、一人で抱えずご相談ください。

5（１）ふるさと納税ポータルサイトでの寄附受付について

大阪府では、教育課題に的確に対応し、子どもたちの確かな「学び」と「はぐみ」を支えるため、「大阪教育ゆめ基金」を設置し、広くご寄附を募っています。

この基金では、教育庁が実施する様々な教育施策への支援に加え、寄附者の皆様が母校や地域の学校など、応援したい学校等を指定して寄附できる「大阪府母校応援ふるさと納税制度」を実施しています。いただいたご寄附は、府立学校や私立高校等における特色ある教育活動や教育環境の充実のために活用しています。

このたび、より多くの皆様に学校を応援していただけるよう、明日、9月1日から、学校等を指定した寄附について、新たに「さとふる」と「ふるさとチョイス」でも受付を開始します。これまでの「大阪府行政オンラインシステム」や「楽天ふるさと納税」とあわせて、複数のふるさと納税ポータルサイトからお申し込みいただけるようになります。

「さとふる」、「ふるさとチョイス」及び「楽天ふるさと納税」では、寄附先として指定できる私立高校等が一部に限られますが、約50校への寄附が受けられますので、指定できる学校等については各ポータルサイトでご確認のうえ、ご指定ください。

これにより、寄附者の皆様が日頃ご利用のポータルサイトからお申し込みいただけることで、より多くの皆様に学校や子どもたちの教育活動を応援していただけることを期待しています。

大阪の子どもたちの学びを支え、学校の魅力ある取り組みをさらに充実させていくためには、府民の皆様をはじめ、多くの方々のご支援が欠かせません。ぜひ、母校や地域の学校、また大阪の教育活動への応援という形で、「大阪教育ゆめ基金」へのご寄附をご検討いただければ幸いです。

6（1）EMO-1 グランプリ 2026 の開催について

EMO（エモ）-1 グランプリは、小中学生が英語の漫才を考え、発表することを通して、「主体的な英語学習の学びの育成」や「英語を使ったコミュニケーション能力の向上」などを目的として取り組んでいるものです。今年度は、12月19日土曜日に、包括連携協定締結大学である、関西大学にて開催を予定しており、小中学生計36組を出場枠としています。

この大会は昨年度、大阪・関西万博の会場で開催し、出場した子どもからは「英語の世界が一気に広がった」や「英語の勉強に対する興味が増えた」といった声がありました。万博を契機に生まれたこの取り組みを一過性のものに終わらせことなく、万博のレガシーとして大阪ならではの特色ある英語教育の取り組みの1つとして進めています。

本事業では、松竹芸能所属の芸人さんを学校に派遣して、「英語漫才ワークショップ」を実施します。ワークショップを実施した学校からは、学校の代表として1組、本大会に出場します。

また、府内の小中学校等に在籍している小学5・6年生及び中学生であれば、誰でも応募できるフリーエントリー枠も設けております。

専用ウェブサイトから英語漫才の動画を応募し、動画審査を経て選出された者は、本大会へ出場することができます。募集は8月27日木曜日からスタートしており、10月30日金曜日までとなります。

英語を学ぶだけでなく、自分たちの表現が「伝わった」「分かり合えた」という経験を積み重ねられることが、本大会の魅力です。「英語漫才に友だちと挑戦してみたい」と思う子どもたちに、ぜひ参加していただきたいと思います。

7（1）府立支援学校 NKC ものづくりチャレンジカップの開催について

府立支援学校 NKC（エヌ ケー シー）ものづくりチャレンジカップ、通称「NKC カップ」は大阪府と包括連携協定を締結している中西金属工業株式会社様と連携して実施している取り組みです。

中西金属工業株式会社様とは、令和4年に連携協定を締結しており、その協定に基づき、ものづくり企業の知見やノウハウ等を活用した教育支援として、令和6年度に、NKC カップが創設され、今年で3回めの開催となります。

生徒がものづくりの楽しさや創意工夫を学ぶとともに、自分たちの考えや作品の工夫、取り組みに込めた思いをプレゼンテーションで伝え、主体性や表現力、協働する力を育む学びの場となっています。

令和7年度は9校27作品のエントリーがあり、最終審査には、7校8作品が選出され、それぞれ表彰されました。

昨年グランプリを受賞した難波（なんば）支援学校には、中西金属工業株式会社様から、社内イベントにおける販売や、ものづくりに関する専門的知見から指導いただく機会等の提供を受けています。

生徒たちによる発表方法は様々で、おひとりで話す生徒、複数人でそれぞれ発言の機会を設定して発表するなど、

工夫して臨んでいます。

昨年度からのグランプリ表彰では、発表の瞬間に、生徒と教員が喜びを分かち合う姿が見られる一方で、残念ながらグランプリを受賞できず、悔し涙を流す生徒もいるなど、ものづくりを通して様々な思いを感じる様子も見られました。

審査員からは、作品に対する講評を受け、子どもたちは客観的な視点から自分たちが作った作品の良さを知り、より一層今後のものづくりへの意欲がより高まった様子でした。

令和 8 年度は 9 校 21 作品のエントリーがあり、現在各校において 9 月末の作品資料提出に向けて製作をすすめています。最終審査や表彰式は 12 月上旬を予定していますので、子どもたちの豊かな感性が存分に発揮された作品の数々を、ぜひ皆さんも注目して楽しみに待っててください。

8（１）大阪府立中央図書館の開館 30 周年イベントについて

大阪府立中央図書館は平成 8 年 5 月 10 日に開館し、今年で 30 周年を迎えました。令和 8 年度は、30 年間の感謝をこめて、いろいろな展示やイベントを実施しております。

5 月に行った第 1 弾では、貴重書の特別展示や新しく完成した地下 2 階の書庫も含めた地下書庫見学ツアーの拡大版など、大阪府立中央図書館の豊富な「蔵書」にスポットを当てたイベントを行いました。9 月 11 日から 10 月 7 日まで行われる記念展示の第 2 弾では、中央図書館の歩みを年表や写真、貸出ベストランキングなどで振り返るとともに、これまで大阪府立中央図書館をご利用いただいた皆様や、同図書館で働く職員など、「人」にスポットを当てた展示を行います。

具体的には第 1 弾で利用者の皆様からお寄せいただいた大阪府立中央図書館へのメッセージや、同館の職員の思い出エピソードなどを紹介します。色々な方から寄せられた大阪府立中央図書館の 30 年をぜひ振り返ってください。そのほか、実際に遊べるオリジナルの「遊んで楽しい！図書館のお仕事すごろく」もご用意する予定です。

第 2 弾の期間後も、30 周年の記念講演会や、今年 7 月にリニューアル 30 周年を迎える大阪市立中央図書館との連携企画など、楽しいイベントを企画しています。今後のイベントについては、引き続きホームページでご案内していく予定ですのでぜひご覧の上、中央図書館へお越しください。

質疑応答

●府立高等学校再編整備計画について

（NHK）

今年度の再編案が示されましたが、今回、商業高校 3 校を 1 校に再編することについて、教育長としてどのような点がポイントだと考えているのか。また、今後、受験する生徒にとって魅力ある学校としていくために、どのように再編を進めていきたいのか、お聞かせください。

（水野教育長）

これまでも再編整備や募集停止について、この場で発表してきましたが、それはどちらかと言えば「廃校のストーリー」でした。私は、この 3 年間教育長を務める中で、単に廃校にしていくのではなく、大阪府の新たな学びをどのように創り、デザインしていくのかというストーリーに変えていきたいと考えてきました。

現在は条例や再編整備方針があり、5 か年計画に基づいて進めており、今年はその 4 年目に当たります。そのため、計画の途中で大きく変更することは難しい状況ですが、その中でも今回は 1 校ずつ募集停止にするのではなく、3 校をしっかりと募集停止とし、新たに未来に必要な教育を担う商業系高校 1 校を創設したいという思いがあります。

実際にどんな商業系高校を新しく作っていくのかという点に関しましては、学校教育審議会の商業部会で議論が進められています。その中でも有識者の皆さんからいただいた意見ですが、AIやデジタル技術の進展などにより産業構造が変化する中で、産業界自体がそもそも前例にとらわれず、市場環境の変化に敏感に対応し、柔軟に実際に協働できるような、そのような時代を牽引する人材を求めているという背景があります。これを受けまして、もちろん現商業高校もそういうところを考えていますが、府としましては3校を新しく1校に再編することで、より先進的でイノベティブな人材を輩出できるような新校を作っていきたいと考えています。

（読売新聞）

アクションプランでは、今後の取り組みとして新たなブランドイメージの構築を掲げています。新しく再編される学校について、どのような生徒に来てもらいたいと考えていますか。また、どのようなブランドをめざしたいと考えていますか。

（水野教育長）

ブランドも含めたスクールミッションについては、まさにこれから議論していく段階です。

本日は3校の募集停止を発表した段階であり、これから新しい学校を具体的に作り上げていきます。

私自身の思いとしては、ビジネスは以前より中学生にとって身近なものになっていると感じています。学校で学んだ株式の仕組みに興味を持ったり、インターネットや動画などを通じて知識を深めたりする生徒も増えています。ビジネスというものは一部の人だけが行うものではなく、ビジネスを通じて社会を変えたいと考えるような中学生が、「ここで学びたい」と思える学校になってほしいと思います。また、新しい価値を創造する力だけでなく、そのアイデアを実際に社会実装する実践力も高校3年間で身につけられる学校であってほしいと期待しています。

（読売新聞）

現在の商業高校でも企業家精神を育むカリキュラムが行われていますが、そのあたりをどのように発展させていくのでしょうか。

（水野教育長）

現在も鶴見商業高校、住吉商業高校、淀商業高校では、アントレプレナーシップ教育や地域と連携したビジネス活動などに取り組んでいます。ただ、本当に新しい商業教育を進めていくためには、一定規模の生徒数と多様な人材が必要です。一方で、3校とも3年連続で定員割れの状況にあり、少子化の進行を考えると、今後さらに生徒数が減少する可能性もあります。そのような状況をふまえ、3校を1校に集約することで、より充実した学びの機会を提供できるのではないかと考えています。

（産経新聞）

住吉商業高校では数年前に「アキンドスパークル」という会社を設立したと聞いています。高校が法人を設立するという珍しい取り組みですが、そうした特色ある取り組みは新しい学校にも引き継がれるのでしょうか。

（水野教育長）

「アキンドスパークル」そのものをどうするかは、今後の議論になります。ただし、現在各校で取り組まれている特色ある教育活動については、新しい学校にも継承される可能性が高いと考えています。法人そのものを引き継ぐのか、その考え方やエッセンスを継承するのかについては、これから検討していくことになります。

(日本経済新聞)

統廃合を進めると同時に今回のように次世代型の教育を取り入れた改革を進める動きがあると思うのですが、高校無償化によって私立高校への人気も高まっています。そうした中で、府立高校だからこそ注力して取り組める教育や、今後どのような特色を打ち出していきたいと考えているのでしょうか。

(水野教育長)

府立高校の強みは、先生方が他の学校にも赴任された経験等で、他校で培ってきた知見やノウハウを持っているという点です。そして知見を共有できるような連携先としては、商業系高校なら大阪ビジネスフロンティア高校のような人気校もありますし、いわゆる実業高校では、工業高校や園芸高校、農芸高校、工芸高校など、多様な専門高校が府立高校にはあります。支援学校もあります。

商業という分野で、まさに多様なものをどのようにビジネスチャンスへつなげていくかを学ぶ教育でもあります。

それぞれの学校が持つアイデアや強みを結び付け、新たな価値を生み出していくこともイノベーションの一つです。商業教育というのは、まさにそういうセンスや根幹のところを学ぶ教育です。その意味で、府立高校には幅広いネットワークと連携資源があり、それが大きな強みだと考えています。

(教育長発言・補足)

再編に関連して申し上げますと、国際関係学科設置高校の改編や、新たな工業系高校であるフィオーラ高校についても、詳細が必要であれば担当課にお問合せいただき、意図なども記事にさせていただけたらありがたいと思います。

今回の商業高校再編は非常に前向きな施策だと考えています。

1校ずつ条例と方針と計画に基づいて、10年かけて3校が1校になり、0校になる可能性も場合によってはあるなかで、我々はアクションプランを策定し、刷新感をだしていき、新しい再編整備の形を模索してきました。

計画の途中で大きく見直すことは難しい状況でしたが、今回、3校を再編して新たな学校を創設するという形を打ち出しました。

フィオーラ高校と同様に、新しい学校づくりを進めることは非常に前向きな取り組みだと考えています。

再編整備が単なる「学校が減る話」ではなく、新しい大阪の学びを創り出すストーリーになることをめざしています。

もちろん少子化への対応や適正配置は必要ですが、それと同時に新しい学びを創ることに取り組んでいきます。

これまでの再編整備を否定するわけではありません。大阪は全国に先駆けて再編整備を進めてきました。

そのうえで、今後は現在のルールの中でも少し方向転換を図り、新たな学びを創出する再編へ進化させていきたいと考えています。

(これは記者会見の概要であり、発言内容をそのまま記録したものではありません。)